

当社が産経新聞(全国版)・12月12日版で毎週日曜日(日曜版)の日曜日版一面特集の『企業の士魂』に掲載されました。11月末に産経新聞社より取材のオファーがあり、12月7日の午前中に産経新聞編集記者の取材を受け、今回の掲載と成りました。特集記事の趣旨、内容については毎週日曜日に5社の企業を取り上げ、中国の故事の四文字熟語を引用し各企業の特徴を重ね合わせて表現する特集だそうです。今まで5,000社以上が掲載されて来た産経新聞日曜日版では歴史ある特集との事。

三正工業

「握髮吐哺」の人材開発で伸展

国際派企業の真骨頂

(周王朝)の創業に苦心した周公旦は、「われ一沐に三たび髪を捉み、一飯に三たび吐哺し、起ちて以て士を待つ」と言い、人材を獲得するためにこれほどの心構えが必要なのだと言破した。「沐」とは頭を洗うこと、「吐哺」とは口の中の食べ物

を吐き出すこと、三たびとは回数が多いことを指す。国づくりも組織づくりも多くの人材を要する。人材を得るために精進した周公旦の気配りは企業の基点だ。三正工業(株)(代表取締役社長・岸 秀世司氏)は、1958年の創業から50年

余の歴史と信用、実績を踏まえて、新たな50年、さらなる成長を期している国際派技術企業。車輛、船舶、自動車、航空機、産業用機器、電気機器といった日本の代表的産業の「黒衣」として、諸金属製品の部品製造から組立、設計・試作までを担い、その卓越の技術力と先進の経営力には定評のあるところだ。俗にいう二代目ではなく、第二創業者であるという気概と進取の精神こそ、同社伸展の推進力と言えよう。ベトナムやネパールの若い技術者のために研修制度を作り、一定の期間滞在させて、高度な技術を伝えるという活動こそ、「三正工業」の真骨頂であり国籍や年代を問わないボーダレスな社風の基軸となっている。まさに「握髮吐哺」さながら、人材を幅広く果敢に求めていくという姿勢は、そのまま社員一人ひとりの士気の高揚とチャレンジ精神を鼓舞した。大きな力を支える小さな巨人として、信頼評価も高い。

葛飾区白鳥4・2・15